

永井荷風とオペラ

日時 2021年12月4日 13時

場所 うつのみや妖精ミュージアム

講師 井村君江（妖精ミュージアム名誉館長）

- 1) 永井荷風（1879－1959）私費留学、小説家、大学教授（森鷗外推薦）、
父親の銀行 アメリカ支店（タコマ、ニューヨーク、ワシントン等）4年
フランス支店（パリ、リヨン）11ヶ月（上田敏 パリ下町劇場、『うずまき』）
『あめりか物語』1908、『ふらんす物語』（発禁）1909、
地中海を離れるイギリス民族の歌曲——日本歌曲楽器による朗読詩。
常磐津時代——『ふらんす物語』「黄昏の地中海」、日本人の音楽性のなさ。
坪内逍遙『新曲浦島』、森鷗外、歌舞伎
（「夕暮れの底遠くして、われは都を望みき」レニエ）『珊瑚集』1913
『冷笑』（朝日新聞小説）1909年－10年迄 夏目漱石推薦、明治時代批判。

(2) 邦楽と洋楽（尺八、三味線）

オペラ作曲をめざしたタコマ時代36年後オペラ作曲。
森鷗外（ドイツ観劇）。上田敏（パリ下町歌劇上演中に会う）
「文学」と「音楽」で新しい芸術化
言葉の音楽性を生かす——西洋にない楽劇創る（オペラ）

(3) 荷風のオペラ（歌舞伎座、浅草劇場上演）

- ①「平敦盛」明治44、
- ②「秋の別れ」明治44、不評「ビールの泡」
- ③「葛飾情話」昭和13、浅草オペラ館上演。（藤原義江歌劇団）

浅草歌劇場、荷風的美意識の根本は「音楽」。

（バス・ガールと学生の恋）菅原明朗 作曲

アリア「恋は破れた」

恋は破れた恋は消えた

恋は消えて夜の空

去り行く人のうしろ影

おぼろにかすむ春の星

日本人のオペラへの関心なし。歌曲素質なし。

日夏耿之介「永井荷風論」鷗外、露伴、鏡花、一葉、芥川。「特殊芸」